

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 10 月 5 日 (2006.10.5)

【公表番号】特表 2002-524913 (P2002-524913A)
 【公表日】平成 14 年 8 月 6 日 (2002.8.6)
 【出願番号】特願 2000-568207 (P2000-568207)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 1/707 (2006.01)

【F I】

H 0 4 J 13/00 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 8 月 10 日 (2006.8.10)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 送信波形を複数の部分に分割するステップと、
 前記送信波形の複数の部分を再配列して再配列波形を生成するステップと、
 再配列した前記複数の部分を送信するステップと、
 を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する方法。

【請求項 2】 一連の前記複数の部分の再配列はランダム再配列である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 前記ランダム再配列は、ランダム数発生器を使用して新しい部分配列シーケンスを連続的に生成することによりなされる請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、パイロット信号を含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、音声信号を含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、データ信号を含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】 送信波形を複数の部分に分割する手段と、
 前記送信波形の複数の部分を再配列して再配列波形を生成する手段と、
 再配列した前記複数の部分を送信する手段と、
 を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限するシステム。

【請求項 8】 前記再配列波形を生成する手段は、ランダム再配列手段である請求項 7 に記載のシステム。

【請求項 9】 前記ランダム再配列手段は、新しい部分配列シーケンスを連続的に生成するランダム数発生器である請求項 8 に記載のシステム。

【請求項 10】 送信波形を複数の領域に分割するステップと、
 前記複数の領域の 2 以上の領域をサブ領域に分割するステップと、
 2 以上の前記サブ領域を互いにインターリーブして、インターリーブサブ領域からなるインターリーブ送信波形を形成するステップと、
 前記インターリーブ送信波形を送信するステップと、
 を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する方法。

【請求項 11】 前記インターリーブサブ領域は、所定の順序で送信される請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】 前記インターリーブサブ領域は、ランダム順序で送信される請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、パイロット信号を含む請求項 10 に記載の方法。

【請求項 14】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、音声信号を含む請求項 10 に記載の方法。

【請求項 15】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、データ信号を含む請求項 10 に記載の方法。

【請求項 16】 送信波形を複数の領域に分割する手段と、
前記複数の領域の 2 以上の領域をサブ領域に分割する手段と、
2 以上の前記サブ領域を互いにインターリーブして、インターリーブサブ領域からなるインターリーブ送信波形を形成する手段と、
前記インターリーブ送信波形を送信する手段と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限するシステム。

【請求項 17】 前記インターリーブ送信波形を送信する手段は、所定の順序で前記サブ領域を送信する手段を含む請求項 17 に記載のシステム。

【請求項 18】 前記インターリーブ送信波形を送信する手段は、ランダムな順序で前記サブ領域を送信する手段を含む請求項 17 に記載のシステム。

【請求項 19】 送信波形を複数の部分に分割する波形セパレータと、
前記送信波形の複数の部分を再配列して再配列波形を生成する波形再配列器と、
再配列した前記複数の部分を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する送信機。

【請求項 20】 一連の前記複数の部分の再配列はランダム再配列である請求項 19 に記載の送信機。

【請求項 21】 前記ランダム再配列は、ランダム数発生器を使用して新しい部分配列シーケンスを連続的に生成することによりなされる請求項 20 に記載の送信機。

【請求項 22】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、パイロット信号を含む請求項 19 に記載の送信機。

【請求項 23】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、音声信号を含む請求項 19 に記載の送信機。

【請求項 24】 前記送信波形の複数の部分のうち少なくとも 1 つは、データ信号を含む請求項 19 に記載の送信機。

【請求項 25】 送信波形を複数の領域に分割し、前記複数の領域の 2 以上の領域をサブ領域に分割する波形セパレータと、
2 以上の前記サブ領域を互いにインターリーブして、インターリーブサブ領域からなるインターリーブ送信波形を形成するインターリーブと、
前記インターリーブ送信波形を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する送信機。

【請求項 26】 前記インターリーブサブ領域は、所定の順序で送信される請求項 25 に記載の送信機。

【請求項 27】 前記インターリーブサブ領域をランダム順序で送信するランダム数発生器を更に含む請求項 25 に記載の送信機。

【請求項 28】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、パイロット信号を含む請求項 25 に記載の送信機。

【請求項 29】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、音声信号を含む請求項 25 に記載の送信機。

【請求項 30】 前記送信波形の複数の領域のうち少なくとも 1 つは、データ信号を含む請求項 25 に記載の送信機。

【請求項 31】 送信波形を複数の部分に分割する波形セパレータと、
前記送信波形の複数の部分を再配列して再配列波形を生成する波形再配列器と、

再配列した前記複数の部分を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する基地局。

【請求項 3 2】 送信波形を複数の部分に分割する波形セパレータと、
前記送信波形の複数の部分を再配列して再配列波形を生成する波形再配列器と、
再配列した前記複数の部分を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する移動局。

【請求項 3 3】 送信波形を複数の領域に分割し、前記複数の領域の 2 以上の領域をサブ領域に分割する波形セパレータと、

2 以上の前記サブ領域を互いにインターリーブして、インターリーブサブ領域からなるインターリーブ送信波形を形成するインターリーブと、

前記インターリーブ送信波形を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する基地局。

【請求項 3 4】 送信波形を複数の領域に分割し、前記複数の領域の 2 以上の領域をサブ領域に分割する波形セパレータと、

2 以上の前記サブ領域を互いにインターリーブして、インターリーブサブ領域からなるインターリーブ送信波形を形成するインターリーブと、

前記インターリーブ送信波形を送信する送信器と、
を具備する無線通信システムにおいてピーク送信パワーを制限する移動局。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

例えば、幾つかの既知システムの総送信パワーは次式のように計算される。

【数 1】

$$\bar{P}_n = \alpha \bar{P}_{n-1} + (1 - \alpha) \bar{e}_n$$

文中では \bar{P}_n は $\text{ノルム} P_n$ 、 \bar{P}_n' は $\text{ノルム} P_n'$ 、 \bar{e}_n は $\text{ノルム} e_n$ で示す。

ここで、 $(1 - \alpha) < 1$ は忘却係数であり、 $\text{ノルム} P_n$ は時間 n におけるフレームパワー評価値を有するベクトルであり、要素 $\text{ノルム} P_n'$ はそのフレーム中の i 番目のシンボル期間中の評価パワーに対応し、 $\text{ノルム} e_n$ は、時間 n における 1 フレームに対して測定されたパワーを含んでいるベクトルである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

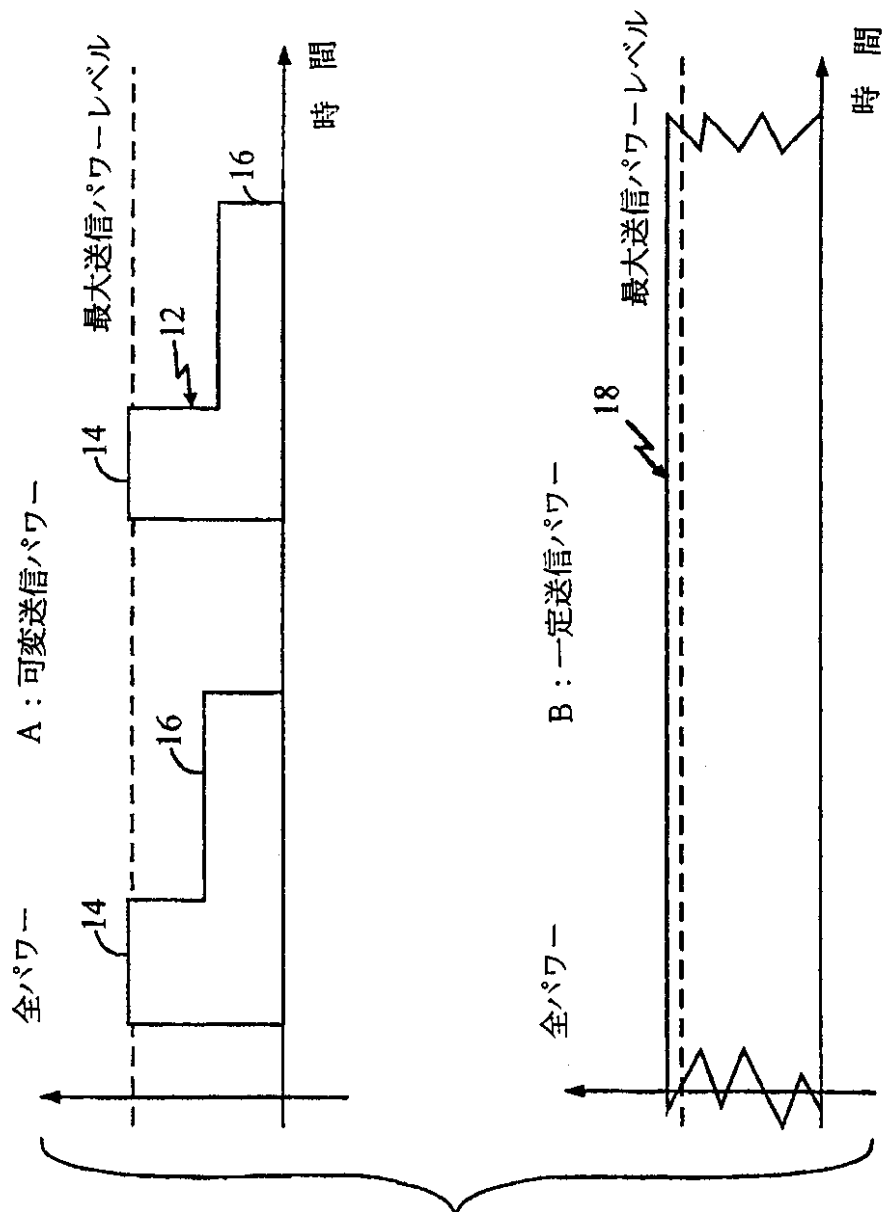
【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 】

10



【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図 2】

